

# 凡百凡歌後拾遺集②



## 「はじめに」

「三代続けばな」が、晩年の親父の口癖でした。どんな思いを込めてのセリフであったか真意を確かめませんでした。が、八十五歳の生涯を閉じたのが平成の御代三年目のことでした。

時を隔てて今年令和三年を私は八十五歳で迎えています。どうやら世代を一サイクル経過して何故か同じ感慨を持ちます。相も変わらぬ人間行動力学へコロナ君が警鐘を鳴らし続けるのも不思議ではなく皮肉なことです。

コロナ禍、日常の生活文化の激変を感じますが、こうして時代は流れるものかと逆らわず諦観しています。親世代から子供世代に引き継ぐわれわれ世代は、戦争と平和を繰り返す人類社会にあつて幸いなるか周辺比較的穏やかな時代を生きて来られたように思います。

忌まわしき、第一次、第二次世界大戦を経験した前二十世紀を決して忘れず、幾多の教訓を二一世紀に引き継ぐべき努力を惜しんではならないと思う今日この頃です。

政府の新型コロナ対策の緊急事態宣言が二度三度繰り返されて丁度一年が経過しました。暗中模索は未だ続きそうです。身辺落穂ひろいをして、また歌集冊子にしました。

令和三年 四月

〔賀状歌〕

平成の三十一歳経て御代令和

千代に八千代に安寧祈る



〔自然詠〕

コロナ禍の年末届く玉手箱

湧く相模原宇宙センター

揺るぎない原風景にひび割れが

四季失われ大きく蛇行

地球規模異常気象の頻発に

謎の解明急がれる今

いつ起きて不思議ではない大地震

活断層に不気味な動き

長雨に川の氾濫土砂崩れ

居座り続く梅雨前線

花粉症紛らいクシャミ連発に

慌ててマスク行く春惜しむ

直播の枝豆ふつくら実をつける

梅雨の食卓ビールのつまみ

春まきのひまわりの種花芽吹く

誕生月に見事大輪



## 「社会詠」

浮かれすぎ奢り昂ぶる人類に

警鐘鳴らすコロナウイルス

コロナ禍の日本経済立ち竦む

医療現場が逼迫の中

自主規制強制自粛ない交ぜに

ストレス溜まる日々の生活

対戦はウイズコロナに富嶽君

宣戦布告飛沫感染

武漢発コロナウイルスボーダレス

凍る地球儀世界遠のく

トランプへ反発うねり極まりて

向こう四年は民主バイデン

分断をどう克服し紛争を

無くす為にぞ問われる英知



テレワーク現役世代次世代は コロナストレスどう向き合うか

試金石働き方は変えられるか 一年先の姿待ちたい

被災地に暑さが加速二次被害 市中感染新クラスター

これからは自共公助の枠組みで 短中長期対策を練る

GOTOは感染拡大キャンペーン ギリギリのギリ施行に待った

コロナ禍の五輪の行方疑問符に いつ終止符が問われる日本

戴冠の大坂なおみ天晴れぞ 死者のマスクに執念込めて



〔自戒詠〕

完璧は彼岸の先にあれかしと　常に前向き故に前進

宿命と云う名の二文字背負わされ　後生大事に天命を待つ

今生きる掛替えのない皆命　明日明後日の保障なけれど

目を閉じて鼓動も止まる一瞬は　嗚呼法華経にしばし合掌

あの世往き順番待ちの列に憑く　招待券は片道キップ

歳経ると見えないものが見えて来る　先輩の言今教訓に

鈍る勘衰える根運頼み　強幸運を令和に託す

自己流の語り部として残したい　コロナ禍以前行動規範



巴戦群集心理密集に 密室密接悪の温床

ウィルスは人と共存伴走者 遺伝子内に感染迷路

綻びは世代間にも親子にも 在りよう変わる生活文化

恐ろしや社会分断容赦なし 見えざる菌にかき混ぜられて

自主自衛強制自粛加えても 感染止まずストレス溜まる

見失う何か不具合起きている 頼る五感に不安が過る

検証に欠かせぬ記録物を言う 時には火種物議を醸す

物事は揉めてもともと当たり前 一旦緩急蘇生が励み

定めとて切ない思いつづく今 限りある身に重い足枷



幸運に強運を呼ぶシルバーは 延長戦に運命託す

依存症前に付く字が何であれ 行き過ぎたとき惚けの始まり

誰彼を問わず挑戦無法者 コロナウイルス正体明かせ

人生は時に前向き後ろ向き 悩みは尽きずこれぞ人生

万全を期すべきはずの底が抜け 凡人故の思わぬ破綻

アナログの生活文化わが世代 デジタル社会肌に馴染まず

有限の世界に生きる凡人は 速さに溺れ藻屑と消える



## 「家族詠」

新年の初雪見舞う今日ここに  
新築家屋立ち合い検査

穏やかな新春日和初墓参  
県央道を妻とドライブ

両親に墓前報告盆供養  
新居に住まう娘家族と

娘婿縁起担いで福生駅  
キップ購入令和に賭ける

わが家族自活ベースの三世代  
隣り合わせの温もりを背に

前身は木造アパートさがみ荘  
戸建て変身娘婿宅

息子岳父鎌田邦宏氏製作「出征を見送る家族の像」靖国神社奉納寄進に寄せて

自作像靖国奉納除幕式  
秋たけなわの栄誉称える



晩年の母の手引いた散歩道　　日課散歩の今われ一人

食欲にリズム育む旬野菜　妻の手料理三度の食事

映子パン朝な夕なに届けられ　　洋食卓を妻と味わう

ファンヒータ娘婿からプレゼント　　室内保温換気に感謝

プレゼント二人の子供家族から　　八十歳のバーバルン

秋雨に新車ルーミーご到着　　佑奈マイカー買い物初荷

こんにちはララも一役勝手出る　　新居のお部屋留守番係り



## 「交友詠」

つれづれに思い交々わらべ会　　寄り添い靡くコスモスの庭

相模原校友集い千壽閣　　新年会に漲る気迫

頼りがいある友一人失いて　　頼られる身に自失默然

また訃報親しき友が年の瀬に　　閑古鳥啼く中道通

アマゾンの化石が土産君は逝く　　万物流転問うも虚しく

あの武漢十年前を思い出す　　喧噪の街宿泊ホテル

行楽地慣れ親しんだスポットは　　海の江の島山高尾山



〔余暇詠〕

一汗を流し「ヴァンサン」 昼席は 新年集い健康テニス

無観客野球競馬に大相撲 テレビ棧敷に気晴らし散歩

ああコロナ一人歩きの世界地図 思い出尽くし冥途の土産

「初めての海外」 日記読み直す 半世紀経た貴重体験

何をどうしたらよいか迷うとき 気を紛らわす麻雀アプリ

早師走危険極まるコロナ君 悔しい思いで走る一年



マイテニス時の記念日復帰でき

太陽浴びる淵野辺コート

待望の梅雨の晴れ間が真夏日に

ストレス発散テニスコートへ

町田市の鶴間コートに足伸ばす

梅雨明け初日陽ざし眩しく

コロナ禍も七か月ぶり遊泳に

クールダウンは横山プール

秋空にペタンク再開久々の

シルバー男女ベストナインで

裏通り袋小路に突き当たり

方向感覚失う迷路

聞き慣れた五時の時鐘に促され

家路を急ぐ周辺散歩



郡司直智（ぐんじ・なおち）

詠歌集

『東西二大国讃歌集』一九九五年

『わが早稲田アデイザデイズ』一九九七年

「母タカ遺稿短歌集」二〇〇五年

「テニス短歌」二〇一二年

「わらべ会（歌日記）アデイ・ザデイズ」

二〇一八年

「凡百凡歌」第一集〜第二二集（一九九八年〜二〇一九年）

「凡百凡歌後拾遺集①」（二〇二〇年）

## 凡百凡歌後拾遺集②

詠・編者 郡司 直智

初版発行 令和 三年四月一日